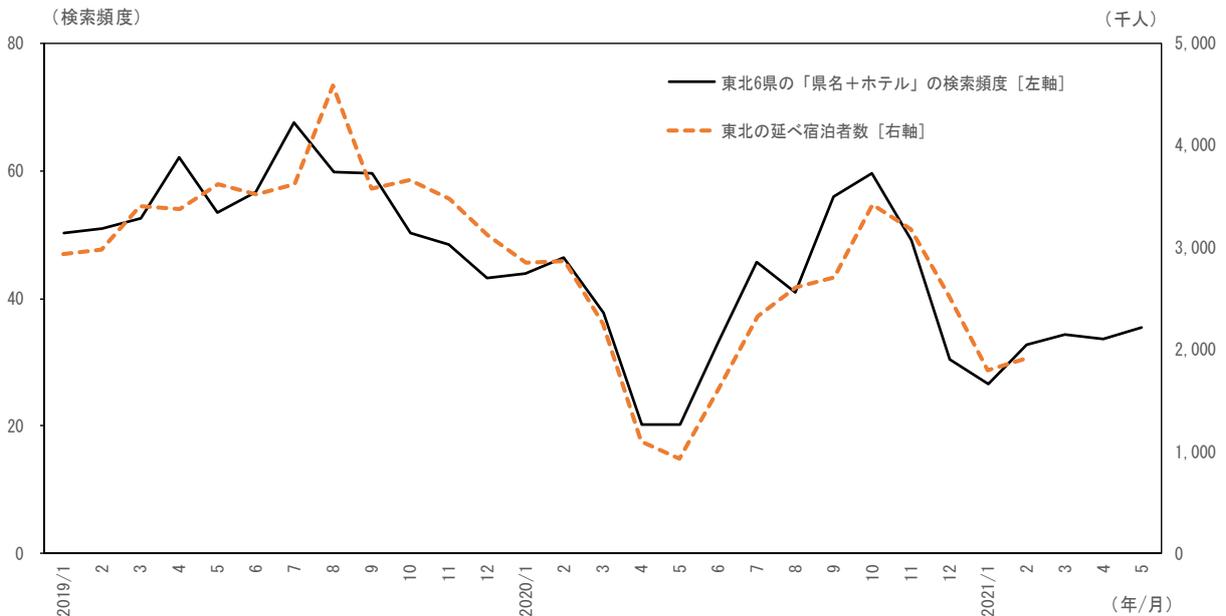




検索頻度データからみた東北のサービス消費

サービス消費への支出動向をタイムリーに把握するべく、検索サイト（Google）におけるキーワード検索頻度データの活用を試みる。まず、東北6県の「県名+ホテル」の検索頻度をみると、「宿泊旅行統計」の東北の延べ宿泊者数と概ね整合的な動きを示している（図表1）。東北の延べ宿泊者数は、2020年12月から2021年1月にかけて感染者数の増加と国・自治体による需要喚起策の一時停止などから大きく落ち込んだ後、直近に至るまで、振れを伴いつつも相応に低い水準で推移しているとみられる。

（図表1）東北6県の「県名+ホテル」の検索頻度と東北の延べ宿泊者数



（注）“東北6県の「県名+ホテル」の検索頻度”は、Googleにおける東北6県の「県名+ホテル」（例：宮城 ホテル）の検索頻度（2019/1月～2021/5月の間に検索頻度が最高となった月を100とした指数）に、東北各県の2019年の延べ宿泊者数を掛け目として加重平均したもの。
 “東北の延べ宿泊者数”は、東北各県における延べ宿泊者数を合計したもの。
 （出所）“Google Trends.” (<https://trends.google.co.jp/trends/?geo=JP>) Accessed: 2021/5/17
 「宿泊旅行統計」（観光庁）

本稿の執筆は、日本銀行仙台支店 安井航平と村山彰良が担当しました。
 本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行仙台支店営業課（022-214-3120）までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。
 なお、本稿で示された意見は執筆者に属し、必ずしも日本銀行の見解を示すものではありません。

▼日本銀行仙台支店HPへのアクセス

当店HPでは「経済の動き」を始め、東北経済に関する様々な情報を掲載しております。是非ご覧ください。



次に、外食の動向を捉えるべく、東北6県の「県庁所在市名+居酒屋」の検索頻度とV-RESASの東北の飲食店サイト閲覧数（居酒屋・バー）をみると、概ね同様の動きを示している（図表2）。最近の推移に注目すると、両者とも、居酒屋・バーの利用が2月から3月前半にかけて増大した後、3月半ばからそれが大きく落ち込んだ状態が続いていることを示唆している。

（図表2）東北6県の「県庁所在市名+居酒屋」の検索頻度と東北の飲食店サイト閲覧数（居酒屋・バー）



（注）“東北6県の「県庁所在市名+居酒屋」の検索頻度”は、Googleにおける東北6県の「県庁所在市名+居酒屋」（例：仙台 居酒屋）の検索頻度（2019/1月～2021/5月の間に検索頻度が最高となった週を100とした指数）に、各県庁所在市の1か月間の1世帯当たり「一般外食」支出額と世帯数（ともに2019年ベース）から算出した各県庁所在市の全世帯における「一般外食」支出額を掛け目として加重平均したもの。

“東北の飲食店サイト閲覧数（居酒屋・バー）”は、内閣府の「地域経済分析システム」（V-RESAS）における飲食店（居酒屋・バー）情報の閲覧数。

（出所）“Google Trends.” (<https://trends.google.co.jp/trends/?geo=JP>) Accessed: 2021/5/17

「V-RESAS、Retty株式会社 Food Data Platform」（2021年5月17日に利用）

「家計調査結果」（総務省統計局）

「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（総務省自治行政局）

以上